

2025 年度 JEITA 技術戦略シンポジウム

産業競争力強化と日本の勝ち筋とは？

～第7期科学技術・イノベーション基本計画実行段階における提言～

日 時：2026年2月3日(火)15:00～17:20

開催方法：Webex Webinarsによるオンラインセミナー

参 加 費：無料（事前登録制）

申込方法：以下 URL からご登録願います。

<https://www.jeita.or.jp/form/custom/53/form>

(2026年1月27日(火)までに事前登録願います)

主催・企画：

一般社団法人 電子情報技術産業協会
技術戦略部会

技術戦略部会では、前年度/2024年度活動として2025年3月末に第7期科学技術イノベーション・基本計画(以下、第7期基本計画)に対して、電子情報技術分野の産業界として「産業競争力強化とSociety5.0の実現に向けて」第一次提言を策定・公開しました。今年度/2025年度は同基本計画の実行に向けて、第一次提言を補強・深堀し、産業競争力強化と日本の勝ち筋を示すべく第二次提言を検討しております。当シンポジウムでは、第二次提言概要をJEITA内外にご紹介するとともに、当部会と有識者の方々との意見交換により、今後の提言の深耕に向けて皆様と考えていきたいと存じます。

<ご参考>

* 第7期基本計画への第一次提言
(ハイライト部分をクリック願います)

2025年3月

[\[産業競争力強化とSociety 5.0 の実現に向けて\]](#)

* 第7期：2026年度～2030年度

<第二次提言の方向性>

経済安全保障に資する重要基盤技術強化

- ・AI、データ、量子、半導体、材料デバイス、先端電子部品、サイバー空間、宇宙、海洋など、基幹技術分野の主権確保と産業競争力の強化を軸に、社会課題の解決とイノベーション創出を両立させるための具体的な道筋を提示。

- ・特にAIおよびデータ分野では、技術的主権とセキュリティを確保しながら産業競争力の飛躍的向上を目指すため、いずれも国産に拘った技術基盤・分散型基盤の早期整備と人材育成、信頼性・透明性の確保、産業データの積極活用を推進することを提言。

研究力の強化

- ・戦略的な人材育成・研究環境整備など、横断的な基盤強化策を提言

イノベーション力の向上

- ・コンテンツとテクノロジーの融合、デジタル技術の活用による創造性の拡張、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーへの移行、スタートアップ支援や中小企業へのAI導入促進など、多様な主体が参画するエコシステムの形成を重視

Program

15:00-15:05 開会の挨拶

望月 康則 氏 JEITA 技術戦略部会副部会長
/日本電気株式会社 NEC フェロー

【第1部：ポジショントーク】

15:05-16:05

恒藤 晃 氏	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局審議官
津田 通隆 氏	独立行政法人情報処理推進機構 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター 情報分析官 /Open Data Spaces 最高設計責任者 /経済産業省 大臣官房 若手新政策プロジェクト PIVOT デジタル経済プロジェクトリーダー
高橋 志津 氏	Director, Technology Engagement Head of IBM Kyoto Research Park Office

-休憩-

【第2部：パネルディスカッション】

16:10-17:20 モデレータ

荒川 泰彦 氏 JEITA 技術政策委員会委員長
/東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授

パネリスト

恒藤 晃 氏
津田 通隆 氏
高橋 志津 氏
佐田 豊 氏 JEITA 技術戦略部会部会長
/株式会社東芝 上席常務執行役員

■司会：樋口 和人 JEITA 技術政策委員会筆頭副委員長

/株式会社東芝

総合研究所 生産技術センター 実装プロセス技術研究部 シニアフェロー

【事務局】

一般社団法人 電子情報技術産業協会 経営企画本部 政策企画部 (担当：鈴木久、長岡)

080-2392-1695, hisaki-suzuki@jeita.or.jp

登壇者略歴

<パネリスト>

■ 略歴

京都大学工学部工業化学科卒、東京工業大学総合理工学研究科電子化学専攻博士課程修了。

1994年、通商産業省（経済産業省）に入省。化学物質安全室長、宇宙産業室長、電力・ガス取引監視等委員会事務局 総務課長、大臣官房審議官（製造産業局担当）を歴任。産業技術総合研究所 理事・執行役員企画本部長を経て2025年7月より内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官として、科学技術・イノベーション基本計画等を担当。

■ 略歴

1997年、奈良県宇陀市生まれ。奈良県立畝傍高等学校、大阪大学卒。大阪大学在学中、エストニア共和国タリン工科大学に留学し、金融領域のソフトウェア事業で起業（代表取締役 CEO/CTO）、エムシーデジタル株式会社（現：MCD3、ビジネスコンサルタント）を経て、2023年経済産業省に入省（総合職・政治国際区分）。2024年商務情報政策局アーキテクチャ戦略企画室長補佐、2025年7月より現職。経済産業省では、ドローン航路政策、産業データ政策に携わり、チーフアーキテクトとしてODS-RAMを設計・執筆したほか、大臣官房若手新政策プロジェクトPIVOTにてプロジェクトリーダーとして「デジタル経済レポート：データに飲み込まれる世界、聖域なきデジタル市場の生存戦略」を執筆。

■ 略歴

システムズ・エンジニアとして入社後、マーケティングを経て2011年よりIBMリサーチにてストラテジー & オペレーションを担当。現在は研究開発部門 Technology Engagement & Acceleration 担当理事および半導体の研究開発と製造実行システムに注力するIBM京都リサーチパークオフィスの責任者を務める。またIBM Research Think Lab Tokyoの運営を統括し、AI、量子コンピューティング、半導体などの先進的なIBMテクノロジーを中心に、クライアント、学生、社員の交流を推進している。職場におけるダイバーシティとインクルージョンの推進に取り組む非営利団体「Japan Women's Innovative Network（J-Win）」のアドバイザーを務める。

■ 略歴

1993年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了、同年10月株式会社東芝入社、2005年東芝欧洲研究所 副所長、2012年 東芝中国社 研究開発センター長、2017年技術統括部長、2018年研究開発センター所長、2020年執行役員、2022年執行役常務CTO、CISOを歴任。2023年より現職。日本機械学会論文賞受賞。日本学術会議会員、日本工学会フェロー、日本機械学会フェロー。

<モレータ>

■ 略歴

1980年東京大学工学系大学院博士課程修了、1993年東京大学教授。東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構長、ミュンヘン工科大学客員教授、日本学術会議会員等を兼任。2018年より現職。量子ドット研究の創始から実用化まで貢献。文化功労者、日本学士院賞、紫綬褒章、C&C賞、デイヴィッド・サーノフ賞、ウェルカー賞、ファン・デル・ポール・ゴーラードメダル等を受賞。全米工学アカデミー外国人会員。



内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

審議官

恒藤 晃 氏



独立行政法人情報処理推進機構

デジタルアーキテクチャ・デザインセンター 情報分析官

／Open Data Spaces 最高設計責任者

／経済産業省 大臣官房 若手新政策プロジェクトPIVOT

デジタル経済プロジェクトリーダー

津田 通隆 氏



Director, Technology Engagement
Head of IBM Kyoto Research Park Office

高橋 志津 氏



JEITA 技術戦略部会長

／株式会社東芝 上席常務執行役員

佐田 豊 氏



JEITA 技術政策委員会委員長
／東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構

特任教授、東京大学名誉教授

荒川 泰彦 氏